

日本語教育機関の皆様へ

結核について知ってください

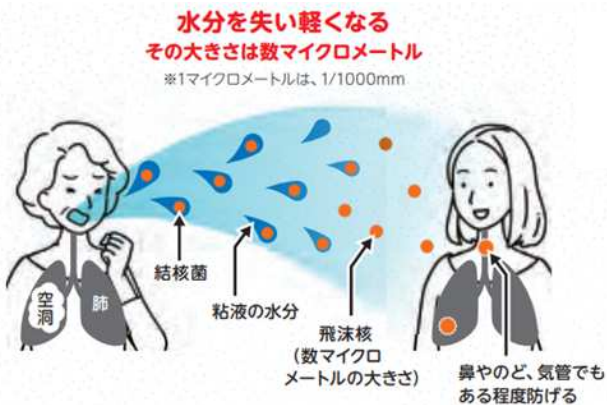


1 結核はどんな病気ですか

- ・結核とは、「**結核菌**」という細菌が原因でおこる感染症です。
- ・感染しても、全ての人が発病することはない、感染から発病までの時間が長いのが特徴です。
- ・症状
長引く咳、たん、発熱、息苦しさ、食欲低下など



2 結核はうつりますか

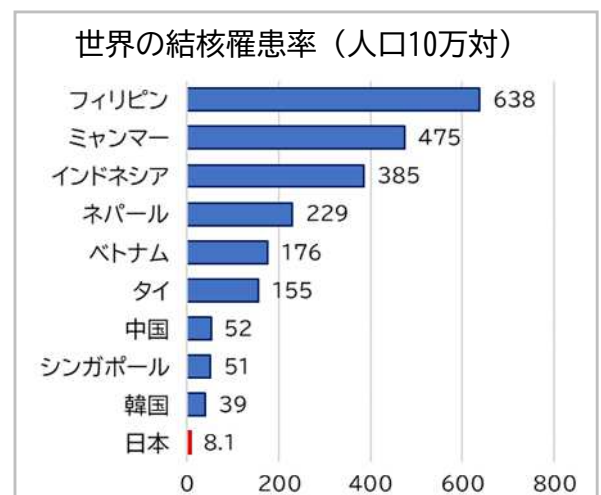


【引用】結核予防会「結核の常識2023」

- ・結核は、結核菌を出している患者の咳やくしゃみなどの「しぶき」といっしょに、結核菌が空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことで、人から人にうつります（**空気感染**）。
- ・感染していても、発病していなければ、他の人にはうつすことは**ありません**。

3 結核は流行っているのですか

- ・日本の結核の患者数は、国をあげての対策により確実に減少してきました。しかしながら、現在でも、1日当たり28人の新しい患者が発生し、5人が命を落としている重大な感染症です。
- ・現在の日本では、結核を発病した人の約1割が外国生まれであり、20代の患者では、8割以上が外国生まれとなっています。
- ・アジアの国々では、現在も多くの結核患者が発生しています。



【出典】厚生労働省「2023年結核登録者情報調査年報集計結果について」（日本は2023の確定値。日本以外はWHOによる2022の推定罹患率）

4 結核にかかったらどんな治療をしますか

- ・結核は、複数の治療薬を6か月から9か月間、毎日きちんと飲むことが大切です。
- ・症状がなくなったからといって、治療の途中で内服を止めてしまうと、病気が悪化したり、薬の効かない結核菌に変わってしまう可能性があります。
決められた期間、決められた治療薬をきちんと内服することが重要です。

5 結核の早期発見のためには何をしたらよいですか

- ・結核の早期発見には、年1回、胸部エックス線検査を受けることが重要です。
(詳しくは、下記の二次元コードから動画をご視聴ください。)
- ・咳やたん、発熱など風邪の症状が2週間以上続く場合には、生徒の方へ、速やかに受診するよう勧奨をお願いします。



6 生徒が結核と診断されたら

- ・結核と診断されたら、保健所の保健師が本人と面接し、感染拡大防止のための調査(積極的疫学調査)を行います。



- ・生徒の結核が、人にうつしやすい状態であった場合には、結核への感染の可能性のある人に対して、接触者健診(血液検査や胸部エックス線検査)を実施します。
*接触者健診の可否や対象者を検討するため、保健師が日本語教育機関へ訪問調査を行いますのでご協力をお願いします。

- ・保健師は、結核と診断された方に対し、服薬支援を行います。
職員の方についても、薬を最後まで服薬できるよう、生徒の服薬支援にご協力をお願いします。



京都市では、日本語教育機関の方に結核についてより知っていただけるよう、研修動画を配信しています。
ぜひチェックしてみてください。



京都市 外国人結核対策 検索

結核と闘うシールぼうや

